

## 《令和七年度暗唱⑤》

### 竹取物語

たけとりものがたり

いまはむかし、

たけとりの翁といふものありけり。

野山にまじりて竹をとりつつ、

ようづのことにつかひけり。

名をば、さぬきのみやつことなむ いひける。

その竹の中に、

もと光る竹なむ一すぢありける。

あやしがりて、寄りて見るに、

筒の中光りたり。

それを見れば、

三寸ばかりなる人、

いとうつくしうていたり。

(おぼえるのはこちらだけです)



スタジオジブリ「かぐや姫の物語」より

(今のことばで言うと…)

今となつては昔のことですが、  
竹取の翁という人がいました。  
野山に分け入つて、竹を取つては、  
いろいろなことに使つていたそうです。  
名を、讃岐の造と言いました。

その竹の中に、

根元が光つてゐる竹が一本ありました。

不思議に思つて、近寄つてみると、  
筒の中が光つてゐます。

それを見ると、

一〇センチくらいの人が、  
とてもかわいらしい姿で  
座つてゐる。

